

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター

1. 事業の概要

事業名称	生活日本語「会話はもちろん、読める！書ける！漢字も増やそう！」教室と支援者の発展事業
事業の目的	生活している外国人は当地域でも増加傾向である。日常会話ができるようになると漢字を含めた読み書きやビジネス社会で通用する力をつけたいという希望になる。これまで6年間、講師とボランティアとが協力して「生活日本語」クラスを行ってきた。学習者の日本人との関係作りの中で日本語能力向上と多文化相互理解をすすめることができている。そこで培った学習形式や内容を養成講座で取り上げ、より多くの支援者養成を行う。さらに支援者が力をつけると即学習者に還元されるので、研修会を支援者のレベルアップを目的に行う。さらに中上級レベルに引き上げていくための読み書き、漢字の力、ビジネスに対応できる力をつけられるように、漢字語彙を習得するためのテキストを作成し、全般的な日本語能力を伸ばしていくようにする。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	当地域は在日コリアンが古くから居住し、1980年代からベトナム人も多く住んでいる。また新たに生活を始める外国人も多くなる。外国人のみの世帯のところも多く孤立している家族もいる。学習申し込みは入国後すぐで最低限の会話ができるようになると日本語学習を終える人も多い。しっかりとした日本語能力をつけることが、その後の生活に大きく影響することは長年の外国人支援から明らかである。しかし生活者に対して、必要な生活日本語から学習でき、しかも長年にわたって力になる日本語力をつける教育カリキュラムを遂行しているところはない。
事業内容の概要	外国出身者が永住が数十年単位の長期的な生活を日本で送るという前提で、必要な日本語能力と文化風習を含む社会的知識が習得できる日本語クラスを開催した。日本人市民とのコミュニケーション重視の生活日本語クラスを行った。日本語講師とスタッフ、日本語ボランティアが情報交換や外国人が日本で住む場合に抱える困難にどう対処すればいいかの勉強会や研修会を行い、日本人市民と外国人市民の共生力を高めた。 養成講座や研修会を行い、生活者の外国人が「生活するために必要なことばや日本の文化風習はどんなものか」を理解してもらった。さらに長期の居住者や学習継続者でも読み書きにハンデを持っている人が多くいるので、日常会話だけでなく文字の読み書きをしっかりとし身につけてもらい、中上級の能力まで伸ばせるように、漢字の基礎学習テキストを作成した。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	坂本 英明	神戸市市長室
2	井口 洋	(公財)兵庫県国際交流協会
3	小林 真由美	(公財)神戸市国際協力交流センター
4	中野 美紀	難民事業本部
5	青木 直子	大阪大学大学院
6	高橋 博子	兵庫日本語ボランティアネットワーク
7	志岐 良子	神戸定住外国人支援センター
8	奥 優伽子	神戸定住外国人支援センター



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年6月26日(月) 13:00～15:00	2時間	KFC事務所横教室スペース	坂本英明、井口洋、小林真由美、中野美紀、青木直子、高橋博子、志岐良子、奥優伽子	1.今年度の文化庁委託事業の主旨説明と具体的内容 2.事業それぞれに対する意見交換、ボランティア基礎講座のアドバイス、成果の検証方法
2	平成29年11月6日(月) 13:00～15:00	2時間	KFC事務所横教室スペース	坂本英明、井口洋、小林真由美、中野美紀、青木直子、高橋博子、志岐良子、奥優伽子	1.中間報告と今後の内容 2.今後の研修会の相談、事業の進め方の意見交換
3	平成30年3月14日(水) 13:00～15:00	2時間	KFC事務所横教室スペース	坂本英明、井口洋、小林真由美、青木直子、高橋博子、志岐良子、奥優伽子	今年度の報告、事業成果の評価と当該地域での当センターの担うべきことを話し合った。

(2) 事業の実施体制

当センターの職員から地域の外国人住民のニーズや課題をきき、日本語部門としてその課題に対応できるよう体制を整えている。日本語のクラスや研修会、教材作成の事業は具体的には講師と通訳者、ボランティア支援者で行っているが、不随業務や問題が出てきたときなどはセンターの職員がサポートしている。横のつながりを大切に密にコミュニケーションをとっている。ボランティア支援者も随時受け付けているので市民が外国人住民や外国事情に触れる機会提供ができています。
--

(3) 地域における連携体制

当センターの職員とは日本語事業だけでなく兵庫県の外国人関係部署、神戸市の国際交流担当と教育委員会と協働でいくつもの事業を行っている。地域の商工会議所や外国人支援ネットにも参加しているので情報共有ができています。日本語関係では「兵庫日本語ボランティアネットワーク」と「ひょうご日本語ネット」とつながっており事業を行う上で派遣講師の受け入れや相談にもものってもらっている。今年度の「日本語ボランティアのための基礎講座」では他の教室や国際交流協会の紹介も行き、当地域の学習者の傾向、ボランティア支援者の状況を知ることができた。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:生活日本語クラス・文字漢字クラス】									
目的・目標	日本語で生活できることを目標に必要な会話と読み書きの学習を行った。ボランティアには自然な日本語で話してもらい、地域のことばに順応できるようにし、講師は学習者のニーズやレベルチェック、学習記録簿を使って自律的に学習していけるよう学習方法のアドバイスなどを担当した。文字漢字クラスでは新出漢字学習と既習漢字復習を組み合わせ文字や文章の読みや書く練習、生活漢字の学習を行った。								
対象	入門・初級・中級レベルの日本語学習者								
取組の内容	日本語講師と日本語ボランティアが協力して学習者をサポートした。前半は、全体で会話学習やテーマ学習を行い、後半はマンツーマンかそれに近い体制で個人のレベルやニーズに合った学習を行った。生活日本語クラスの経験から、どんな会話のフレーズが人間関係の距離を縮めるか、またテーマ学習を入門向けから初級後半向けまで段階を追ってできるように講師がボランティアに伝えられるようにした。学習記録簿に記入してもらい、主体的に学習すること、何を目標に学習しているかをいつも意識してもらうようにした。さらに日本語をいつまでもハンデとしないで生活できるように、文字の読み書きの学習も充実させた。								
実施期間	平成29年5月15日～平成30年3月19日					曜日・時間帯		月曜日(19:00～20:30)	
開催回数	全 55.5時間 (1回1.5時間 × 37回)					開催場所		シューズプラザ4階会議室	
参加者	総数 33人 (日本語学習者 23人、指導者・支援者 10人など)					使用した教材・リソース		「筆運びで学ぶ楽しい漢字帳」 「漢字マスターN5」 「にほんごチャレンジN4-5」	
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	2	1		14					
	インド(3人)、台湾(2人)、シンガポール(1人)								
カリキュラム案活用	①②③を教室参加メンバーが決まってからのシラバスと各回の学習を決めるときに参考にした。④の内容を参考に講師がクラスのメンバーに合うようにして、定期的な学習の振り返り(3か月ごと)の時に使った。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成29年5月15日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	8	1年生の漢字	基本的な漢字を提示し、その中で自分が知っている漢字を書いてみた。 (一ニ三四五六七八九十百千万 日月火水木金土出入大中小上下 円左右白山人男女)	伊川 輝義	ブティケウイ	
2	平成29年5月22日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	8	色の漢字	白、青、赤の漢字を書いて覚える。 その漢字を使って文を言ってみた。	伊川 輝義	ブティケウイ	
3	平成29年6月5日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	8	曜日の漢字	一週間(月～日)の漢字を書いて覚えた。その漢字の意味の確認と語彙を増やした。	伊川 輝義	ブティケウイ	
4	平成29年6月12日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	5	位置の漢字	上、下、右、左の漢字を書いて覚えた。今まで学習した漢字も使って語彙を増やした。	伊川 輝義	ブティケウイ	
5	平成29年6月19日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	5	基本漢字	象形文字の紹介した。山、川、草の漢字の意味を確認し、書いて覚えた。	伊川 輝義		
6	平成29年6月26日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	6	漢字(屋外で)	竹、花、田、虫、林の漢字の意味を確認し、書いて覚える。	伊川 輝義		
7	平成29年7月3日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	5	復習	これまでに習った漢字の復習をした。	伊川 輝義		
8	平成29年7月10日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	8	形の似ている漢字	止-正、文-父、母-毎の形の似ている漢字の違いを理解し、書いて覚えた。	伊川 輝義		
9	平成29年7月24日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	8	漢字(屋外で)	虫、林、森、天、空、雨の意味や成り立ちの説明と書いて覚えた。	伊川 輝義	ブティケウイ	
10	平成29年7月31日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	5	形の似ている漢字	右-左-友、石-岩の漢字の違いを理解し、書いて覚えた。今までの復習をした。	伊川 輝義	ブティケウイ	
11	平成29年8月21日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	6	カタカナに似ている字、カタカナの組み合わせの漢字	才、化、夕、多、外、竹の意味を理解し、書いて覚えた。	伊川 輝義		
12	平成29年8月28日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	6	カタカナに似ている字、カタカナの組み合わせの漢字	名、工、公、台の意味を理解し、書いて覚える。語彙を増やした。	伊川 輝義	ブティケウイ	
13	平成29年9月4日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	8	形の似ている漢字	大-犬-太-天の違いを理解し、書いて覚えた。 今までの漢字の復習をした。	伊川 輝義	ブティケウイ	

14	平成29年9月11日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	6	生活漢字(数字、ビルの中)	一～十、百、千、万、円を書いて覚えた。 開閉入口出口非常口の意味を理解し読めるようにした。	伊川 輝義	ブティークワイ
15	平成29年9月18日(月) 19:00～20:30	1.5	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	3	生活漢字(トイレ)	大小流湯水 使用禁止の意味を理解し読んだ。 N5問題集(漢字マスターN5)をした。	伊川 輝義	
16	平成29年9月25日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	7	生活漢字(カレンダー)	月～日、年の意味を理解し読む、書いた。 N5問題集(漢字マスターN5)をし	伊川 輝義	
17	平成29年10月2日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	4	生活漢字(カレンダー)	これまでの復習をした。 N5問題集(漢字マスターN5)をした。	伊川 輝義	ブティークワイ
18	平成29年10月16日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	7	漢字(人)	体の漢字(人、口、目、耳、手、足)の意味と読みを確認し、書いた。	奥 優伽子	ブティークワイ
19	平成29年10月23日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	7	漢字(人)	これまでの復習をした。 N5問題集(漢字マスターN5)をした。	伊川 輝義	ブティークワイ
20	平成29年10月30日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	8	漢字(自然)	自然の漢字(山、川、田、石、花、竹、雨)の意味と読みを確認し、書いた。	奥 優伽子	ブティークワイ
21	平成29年11月6日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	7	漢字(自然)	これまでの復習をした。 N5問題集(漢字マスターN5)をした。	奥 優伽子	ブティークワイ
22	平成29年11月13日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	5	漢字	知っている漢字を書いてみた。 生活漢字の読みの復習した。	伊川 輝義	ブティークワイ
23	平成29年11月20日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	9	漢字(ばしょ)	ばしょの漢字(上、下、左、右、外、内、中)の意味と読みを確認し、書いた。	伊川 輝義	ブティークワイ
24	平成29年11月27日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	5	漢字(ばしょ)	これまでの復習をした。 N5問題集(漢字マスターN5)をした。	伊川 輝義	ブティークワイ
25	平成29年12月4日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	4	漢字	これまでの復習をした。 N5問題集(漢字マスターN5)をした。	伊川 輝義	ブティークワイ
26	平成29年12月11日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	3	漢字(学校)	学校の漢字(学、校、先、生、名、字、本、体)の意味と読みを確認し、書いた。	伊川 輝義	ブティークワイ
27	平成29年12月18日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	3	漢字(学校)	これまでの復習をした。 N5問題集(漢字マスターN5)をした。	奥 優伽子	ブティークワイ
28	平成29年12月25日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	2	漢字	自分の好きな漢字をひとつ選んで書いた。どうしてその漢字が好きかを発表した。	奥 優伽子	ブティークワイ
29	平成30年1月15日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	6	生活の漢字(数・カレンダー)	数に関係した漢字(助数詞、月日)を学習した。 曜日、時間の漢字を学習した。	伊川 輝義	ブティークワイ
30	平成30年1月22日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	4	生活の漢字(住所)	自分の住所を書けるように練習した。 神戸市の区の場所と漢字の学習した。	奥 優伽子	ブティークワイ
31	平成30年1月29日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	3	生活の漢字(お手洗い)	トイレを表す漢字を学習した。トイレの中の漢字を学習した。	伊川 輝義	ブティークワイ
32	平成30年2月5日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	6	生活の漢字(知っておこう)	身の回りの漢字(エレベーター、道路など)を学習した。	伊川 輝義	
33	平成30年2月19日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	4	生活の漢字(買い物)	食料品売り場の漢字を学習した。	伊川 輝義	
34	平成30年2月26日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	5	生活の漢字(リモコン・交通)	リモコンの漢字を学習した。 交通手段の漢字を学習した。	伊川 輝義	
35	平成30年3月5日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	3	生活の漢字(交通)	駅で見る漢字を学習した。 切符の漢字を学習した。 路線図で主要な駅名と場所を確認した。	伊川 輝義	ブティークワイ
36	平成30年3月12日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	4	生活の漢字(病院)	病院の診療科の漢字した。薬袋を読んだ。	伊川 輝義	ブティークワイ
37	平成30年3月19日(月) 19:00～20:30	1.5	シューズプラザ4階会議室	2	生活の漢字(銀行・郵便局)	ATMの漢字を学習した。	伊川 輝義	ブティークワイ

日本語教育の実施【活動の名称:生活日本語クラス・文字漢字クラス】									
目的・目標	日本語で生活できることを目標に必要な会話と読み書きの学習を行った。ボランティアには自然な日本語で話してもらい、地域のことばに順応できるようにし、講師は学習者のニーズやレベルチェック、学習記録簿を使って自律的に学習していけるよう学習方法のアドバイスなどを担当した。文字漢字クラスでは新出漢字学習と既習漢字復習を組み合わせ文字や文章の読みや書く練習、生活漢字の学習を行った。								
対象	入門・初級・中級レベルの日本語学習者								
取組の内容	日本語講師と日本語ボランティアが協力して学習者をサポートした。前半は、全体で会話学習やテーマ学習を行い、後半はマンツーマンかそれに近い体制で個人のレベルやニーズに合った学習を行った。生活日本語クラスの経験から、どんな会話のフレーズが人間関係の距離を縮めるか、またテーマ学習を入門向けから初級後半向けまで段階を追ってできるように講師がボランティアに伝えられるようにした。学習記録簿に記入してもらい、主体的に学習すること、何を目標に学習しているかをいつも意識してもらうようにした。さらに日本語をいつまでもハイレベルで生活できるように、文字の読み書きの学習も充実させた。								
実施期間	平成29年5月16日～平成30年3月20日					曜日・時間帯		火曜日(10:00～12:00)	
開催回数	全 76時間 (1回2時間 × 38回)					開催場所		神戸定住外国人支援センター教室スペース	
参加者	総数 37人 (日本語学習者 24人、指導者・支援者 13人など)					使用した教材・リソース		「なでしこジャパニーズ」 「みんなの日本語」 「多読ライブラリー」	
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	4	2	0	12	0	0	0	0	1
	台湾(3人)、オーストラリア(1人)、ブルガリア(1人)								
カリキュラム案活用	①②③を教室参加メンバーが決まってからのシラバスと各回の学習を決めるときに参考にした。④の内容を参考に講師がクラスのメンバーに合うようにして、定期的な学習の振り返り(3か月ごと)の時に使った。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成29年5月16日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	お勤めの場所	神戸市内でのお勤めの場所を話した ・神戸市の地図を読んだ ・場所とお勤めの理由とここからどうやって行くかを話した		奥 優伽子	ハ ティ タン カ
2	平成29年5月23日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	買い物(1)	買い物(1)を学習した ・店の種類の確認(デパート、百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストア)		奥 優伽子	ハ ティ タン カ
3	平成29年6月6日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	買い物(2)	買い物(2)を学習した ・チラシを見てことばを確認(野菜、果物、卵、魚、肉、お菓子、お米、お惣菜、アイスクリーム) ・「ホームパーティーをするので、〇〇を作る。」予算3000円で食料品の買い物をするワークをした		奥 優伽子	ハ ティ タン カ
4	平成29年6月13日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	台風	・ことば(大雨、暴雨、暴風、竜巻、雷、洪水、浸水、冠水、土砂崩れ、停電)を学習した。 ・警報の種類、場所(兵庫県南部、阪神、神戸市)を学習した。 ・「もし台風が来たら、〇〇になるかもしれません。」の例文を作成した		奥 優伽子	ハ ティ タン カ
5	平成29年6月20日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	夏至	6月20日は夏至です をテーマに会話をした。 ・夏至の説明(昼が最も長く、夜が最も短いです)をした ・夏至、冬至、春分、秋分のことばのどうにゅうをした ・6/27のスピーチの準備をした		奥 優伽子	ハ ティ タン カ

6	平成29年6月27日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	スピーチ会	これまで学習した記録を振り返って、学習した日本語について話した ・他の人の発表を聞いて、わからないことばがあれば質問する時間をとった (根気がある、顔から火が出る、初心を忘れない、粗大ごみ等発表の中でわからないことばを皆で学習した)	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
7	平成29年7月4日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	七夕	「七夕物語」を読んだ ・文について(文とは何か、句読点、かぎカッコ)学習した ・笹飾りと短冊の作文作りをした (願い事を書く時のことば「～ように」)	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
8	平成29年7月11日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	お中元・暑中見舞い	7月の日本の行事の話をした ・上司、得意先、お世話になっている人などに贈り物をするお中元の話をした ・暑中見舞いを書いてみた	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
9	平成29年7月18日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	日本の食べ物(1)	7月の日本の行事の話をした ・土用の丑の日に鰻をたべて、夏を乗り切りの習慣について話した ・夏バテのことばの説明をした ・あなたの国では疲れた時に何を食べますかというテーマで会話をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
10	平成29年7月25日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	日本の食べ物(2)	豆腐について学習した ・豆腐売り場/豆腐屋で売っているものの種類や名前を紹介した ・「豆腐はどうやって作るか」の説明文の学習をした ・日本で食べた豆腐料理は何か 「あなたの国には豆腐があるか」 「どんな料理に使うか」をテーマに会話をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
11	平成29年8月1日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	日本の食べ物(3)	お寿司について学習した ・多読ライブラリー「すし」を読んだ ・お寿司の種類(ちらし寿司、いなり寿司、押し寿司など)を確認した ・「握り寿司のネタの種類」をテーマに会話をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
12	平成29年8月8日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	4	日本の食べ物(4)	お寿司 ・多読ライブラリー「すし」を音読、読解学習を行った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
13	平成29年8月22日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	日本の食べ物(5)	お寿司 ・多読ライブラリー「すし」の音読、読解を行った ・レトルトのちらし寿司の作り方を読んでみた	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
14	平成29年9月5日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	病院へ行く	・体の部分の名前と「〇〇が痛いんです。」のフレーズを学習した ・病院の診療科と「近くに病院がありますか。」のフレーズを学習した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
15	平成29年9月12日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	シルバーウィーク	・敬老日、秋分の日、シルバーウィークについて 「もうすぐシルバーウィークですね。どこかへ行きますか。」をテーマに会話をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
16	平成29年9月19日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	秋分の日	秋分、春分の日の説明、季節を表すことばを学習した 立春 立夏 立秋 立冬 春分 夏至 秋分 冬至のことばと現象を説明した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
17	平成29年9月26日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	9	スピーチ会	これまで学習した記録を振り返って、学習した日本語について話した ・他の人の発表を聞いて、わからないことばがあれば質問し合った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
18	平成29年10月3日(火) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	月見	中秋の名月の話題で、日本と学習者の国での過ごし方について話し合った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ

19	平成29年10月10日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	スポーツの秋	・体育の日 運動やスポーツについて学習した スポーツの名前、よく見るスポーツ、したことがあるスポーツについて話し合った 野球、卓球、水泳、バレーボール、バスケットボール、ヨガ、大相撲、筋力トレーニングのことばを学習した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
20	平成29年10月17日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	9	電話でピザを注文する	宅配(品物を家に配達すること)について カタログを見て、ピザを注文する練習をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
21	平成29年10月24日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	10	11月の祝日	文化の日、勤労感謝の日について 読書週間のことを説明した、 スポーツの秋、文化の秋、読書の秋、食欲の秋など日本の秋に対する考え方を説明した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
22	平成29年11月7日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	七五三	子どもの成長を祝う行事、学習者の国にも子どもの成長を祝う行事があるか話し合った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
23	平成29年11月14日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	電話で予約する	美容院、ホテルを予約する電話のかけ方を練習した 予約の変更を電話でする練習した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
24	平成29年11月21日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	私のおすすめ	食べるところ、飲むところ、行くところ、 でおすすめを聞いたり、言ったりした。 「〇〇なら、どこがいいですか?」 「〇〇なら、△△がいいですよ。～ですから。」などのフレーズを使った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
25	平成29年11月28日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	事件・事故	語彙(交通事故、けんか、盗難、ひったくり、詐欺、ちかん、DV、虐待など)を学習した 「助けて!」「誰か来て!」「警察をよんでください。」など助けを求めることばを学習した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
26	平成29年12月5日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	年末年始、年賀状	新暦の年末年始の過ごし方を話し合った 年賀状を書いた	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
27	平成29年12月12日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	スピーチの原稿作成	10月から学習したことを振り返って、 学習した日本語について発表原稿を書いた文の書き方を学習した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
28	平成29年12月19日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	スピーチ・茶話会	先週に作成した原稿に基づいて、 皆の前で発表した 忘年茶話会をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
29	平成30年1月9日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	書初め	筆を使って書初めをした 道具の置き方、書く時の姿勢、筆の持ち方、書き順の確認した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
30	平成30年1月16日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	地震・防災	1995年兵庫県で大きな地震が発生したことについて学習した シェイクアウト訓練の説明をした 「地震にあったことがありますか」 「地震に対してどんな準備が必要か考えましょう」をテーマに話し合った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
31	平成30年1月23日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	節分	節分の説明、過ごし方を説明した 旧暦のお正月の過ごし方を話し合った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
32	平成30年2月6日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	バレンタインデー	日本でのバレンタインデーの行事を紹介した 本命チョコ、義理チョコ、ご褒美チョコ、友チョコなどを紹介した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
33	平成30年2月13日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	「一休さん」を読む	クラス皆で声を合わせて読む練習をした 難しい言葉の説明をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ

34	平成30年2月20日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	「一休さん」を読む	クラス皆で声を合わせて読む練習をした 一休さんは賢い小僧さんで京都に一休寺があることの紹介をした 「このはし わたってはいけません。」の話を紹介した はしの同音異義語、端、橋、箸を例にその他の同音異義語を学習した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
35	平成30年2月27日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	ひなまつり	女の子のお祭りであることを紹介した ひな人形の話から、結婚について、女性の幸せは何かなど話に発展した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
36	平成30年3月6日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	ホワイトデー	バレンタインデーとホワイトデーの話をした カタログを見てプレゼントを注文した どうしてそのプレゼントを選んだのか発表し合った	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
37	平成30年3月13日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	留守番電話	電話のかけ方受け方のことばの確認した 不在の場合の言い方の練習をした 留守番電話にメッセージを入れる練習をした	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ
38	平成30年3月20日(火) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	春分の日	春の彼岸、秋の彼岸の行事について学習した 1月から学習したことを振り返って、学習した日本語について発表した	奥 優伽子	ハ ティ タン ガ

日本語教育の実施【活動の名称:生活日本語クラス・文字漢字クラス】									
目的・目標	日本語で生活できることを目標に必要な会話と読み書きの学習を行った。ボランティアには自然な日本語で話してもらい、地域のことばに順応できるようにし、講師は学習者のニーズやレベルチェック、学習記録簿を使って自律的に学習していけるよう学習方法のアドバイスなどを担当した。文字漢字クラスでは新出漢字学習と既習漢字復習を組み合わせ文字や文章の読みや書く練習、生活漢字の学習を行った。								
対象	入門・初級・中級レベルの日本語学習者								
取組の内容	日本語講師と日本語ボランティアが協力して学習者をサポートした。前半は、全体で会話学習やテーマ学習を行い、後半はマンツーマンかそれに近い体制で個人のレベルやニーズに合った学習を行った。生活日本語クラスの経験から、どんな会話のフレーズが人間関係の距離を縮めるか、またテーマ学習を入門向けから初級後半向けまで段階を追ってできるように講師がボランティアに伝えられるようにした。学習記録簿に記入してもらい、主体的に学習すること、何を目標に学習しているかをいつも意識してもらうようにした。さらに日本語をいつまでもハンデとしないで生活できるように、文字の読み書きの学習も充実させた。								
実施期間	平成29年5月16日～平成30年3月20日					曜日・時間帯		日曜日(10:00～12:00)	
開催回数	全 76時間 (1回2時間 × 38回)					開催場所		神戸定住外国人支援センター教室スペース	
参加者	総数 27人 (日本語学習者 13人、指導者・支援者 14人など)					使用した教材・リソース		「なでしこジャパニーズ」 「みんなの日本語」	
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	1	1	0	10	0	0	0	0	0
	台湾(1人)								
カリキュラム案活用	①②③を教室参加メンバーが決まってからのシラバスと各回の学習を決めるときに参考にした。④の内容を参考に講師がクラスのメンバーに合うようにして、定期的な学習の振り返り(3か月ごと)の時に使った。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成29年5月21日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	6	自己紹介／個別学習	自分を紹介をした 初対面の人に質問をし合った		伊川 輝義	
2	平成29年5月28日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	5	防災／個別学習	災害のことば、「地震が起こったら、どうしますか?」「どんな準備が必要でしょうか?」を自分にあてはめて考え、発表した		岡本 道代	
3	平成29年6月4日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	5	防災／個別学習	防災グッズの紹介と説明をした 自分の地区の避難所を地図で確認した		伊川 輝義	
4	平成29年6月11日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	6	日本に来て感じたこと／個別学習	日本に来て感じたことを発表し、質問し合った		岡本 道代	
5	平成29年6月18日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	4	病院／個別学習	病院のシステムについて学習した 保険、病院の選び方、費用などについて話し合った 内科外来の問診票を書いてみた		伊川 輝義	
6	平成29年6月25日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	6	日本に来てから買ったもの／個別学習	日本に来てから買ったものを発表し、質問し合った		岡本 道代	
7	平成29年7月2日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	3	7月の行事／個別学習	七夕の話を讀んだ 「海の日」、夏のレジャーについて話し合った 「暑中見舞い」を書いてみた		岡本 道代	
8	平成29年7月9日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	7	遠足の計画／個別学習	クラスで8月に行く遠足について相談をした		伊川 輝義	
9	平成29年7月16日(日) 10:00～12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	7	好きなことば／個別学習	自分の好きなことばを発表し、質問し合った		岡本 道代	

10	平成29年7月23日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	質問／個別学習	似たような言葉で使い方がわからないとか、ややこしい文法について勉強した	伊川 輝義	
11	平成29年8月6日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	一生懸命に取り組んだこと／個別学習	これまでに一生懸命に取り組んだことについて発表し、質問し合った	岡本 道代	
12	平成29年8月20日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	遠足の感想／個別学習	8月13日に行った遠足について、行かなかった人へのお土産話や感想などを話し合った	伊川 輝義	
13	平成29年8月27日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	体にいいこと／個別学習	健康に気遣って、日ごろ心がけていることを発表し、質問し合った	岡本 道代	
14	平成29年9月3日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	敬語(1)／個別学習	敬語についてテキストで勉強した丁寧語、尊敬語、謙譲語を学習した	伊川 輝義	
15	平成29年9月10日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	敬語(2)／個別学習	職場で使用する敬語について、日ごろ難しいと感じていることを出し合って正しい言い方を確認した	伊川 輝義	
16	平成29年9月17日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	このクラスの進め方について／個別学習	このクラスの進め方についてみんなでお話した	岡本 道代	
17	平成29年9月24日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	スピーチ 個別学習	学習者2名が自分の好きなテーマでスピーチした 「私のペット」「故郷ダナンの紹介」がテーマだった	岡本 道代	
18	平成29年10月1日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	4	スピーチ 個別学習	学習者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「水だしコーヒーについて」というテーマだった	伊川 輝義 岡本 道代	
19	平成29年10月8日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	スピーチ 個別学習	学習者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「お得なクーポン」というテーマだった	岡本 道代	
20	平成29年10月29日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	スピーチ 個別学習	学習者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「ベトナムの文化」というテーマだった	伊川 輝義	
21	平成29年11月5日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	スピーチ 個別学習	学習者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「ハルビンの氷祭り」というテーマだった	伊川 輝義 岡本 道代	
22	平成29年11月12日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	スピーチ 個別学習	学習者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「ベトナムの祭りソックチャン」というテーマだった	伊川 輝義 岡本 道代	
23	平成29年11月19日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	スピーチ 個別学習	支援者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「日本と韓国の食文化について」というテーマだった	伊川 輝義 岡本 道代	
24	平成29年11月26日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	スピーチ 個別学習	支援者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「世界一周の船旅」というテーマだった	伊川 輝義 岡本 道代	
25	平成29年12月3日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	スピーチ 個別学習	支援者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「ペルー旅行の話」というテーマだった	伊川 輝義 岡本 道代	
26	平成29年12月10日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	年末年始	年末年始の行事や慣習について学習した 年賀状を書いた	伊川 輝義	
27	平成29年12月17日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	6	スピーチ 個別学習	学習者1名が自分の好きなテーマでスピーチした 「ベトナムでの結婚式」というテーマだった	岡本 道代	
28	平成29年12月24日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	大掃除と正月休みの予定	自分の正月休みの予定について発表し合った 大掃除の習慣を説明し実際に行った	伊川 輝義	

29	平成30年1月14日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	お正月	お正月をどう過ごしたか発表し合った	岡本 道代	
30	平成30年1月21日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	8	今年の抱負	今年の抱負を発表し合った	岡本 道代	
31	平成30年1月28日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	冬季オリンピック	韓国での冬季オリンピックについて話した 冬のスポーツの紹介をした	伊川 輝義	
32	平成30年2月4日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	節分	2月3日の節分について話した 3月4日のお好み焼きパーティーの計画を皆で話し合った	岡本 道代	
33	平成30年2月11日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	自己紹介	新しい支援者が来たので、「相手を知る」活動を行った	伊川 輝義	
34	平成30年2月18日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	4	パーティーの手順	3月4日のお好み焼きパーティーの手順、準備物、内容、役割などを話し合った	岡本 道代	
35	平成30年2月25日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	5	2月3月の行事	日本の2月3月の行事について紹介した 年度の話をした	伊川 輝義 岡本 道代	
36	平成30年3月4日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	レシピを読む	料理(お好み焼きと広島焼)のレシピを読んだ 実際に皆で買い物に行って広島焼を作ってみた	伊川 輝義 岡本 道代	
37	平成30年3月11日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	東日本大震災	東日本大震災の話をした 阪神淡路大震災のことを経験者から聞いた	伊川 輝義 岡本 道代	
38	平成30年3月18日(日) 10:00~12:00	2	神戸定住外国人支援センター教室 スペース	7	日本の会社の特徴	日本の会社の特徴を話した 4月から新卒で就職する人から一般職や総合職のことなど日本の会社の話をした	伊川 輝義 岡本 道代	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第29回 2018年1月9日】

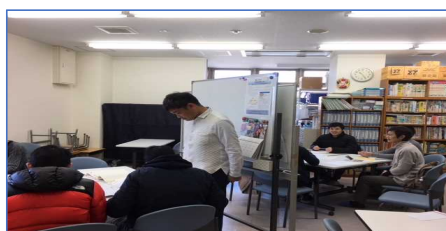
年が明けて初めての学習日なので、新年の挨拶をした後、お正月休みをどのように過ごしていたかをみんなの前で発表した。毎回しているが、テーマを決めてボランティア支援者も話をした。その中で自然に出てきたことばで知っておいた方がいい言葉はホワイトボードに書いて学習者の目の付くようにした。その後、本格的に書道の道具を使って書初めを行った。小中学校で習うように、まず道具を簡単に紹介し、道具の置き方、書く時の姿勢を説明し、筆の持ち方と基本的な運筆も実際にやってみた。そして個々に自分の書きたいことばを考えて書初めをした。今年は中国や台湾出身の学習者が多かったので、中国語で自分の好きなことばを書いた人も多かった。例年は支援者が書初めのことばを説明するが、今回は学習者が支援者にその意味を説明してくれることとなった。



○取組事例②

【第37回 2018年3月11日】

前半はみんなで一つのテーマについて話をした。ボランティア希望の新しいメンバーも加わって簡単な自己紹介の後、ちょうど3月11日なので、今日は何の日か知っているか学習者に聞いた。東日本大震災と知っている人から答えが出て、東北地方に大きな津波が来たことの説明をしてくれた。国でも地震があるかないかや、日本には地震が多いという話になり、神戸にも大きな地震があったこと、経験者からはその時の経験談を聞いた。普段からボランティアはわかりやすいことばで話すようにしてくれるが、理解しにくい言い回しやことばはコーディネーターが取り上げて説明し、学習者が話についてきているかどうか確認しながら、話を聞いた。最後に水や食料の備えをしているかや避難所のことなどと防災としてどうすればいいかの話でまとめた。後半は個別またはグループに分かれてそれぞれの学習をした。能力試験の本に沿って学習を進めている人が多かった。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケートは3月に行ったが、19人が上手になったとか生活ができるようになったと回答している。ボランティア支援者に地元の自然なことばで話してもらい、会話ができていくことが上手になっている等の自覚につながっていると思われる。支援者からは、何も話せなかった人が徐々に会話の幅が広がること、初回の不安げな様子から顔が明るくなって人の輪に入れるようになっていくことが見て取れる、それが嬉しいという声が出た。入国したばかりの人にとっては語学力と安心して生活していけるという成果が出ている。火曜日のクラスでは昨年度よりクラス内スピーチ会参加者が増えたこと、日曜日のクラスは学習者からスピーチをしたいという提案があり行ったことなどいいクラス作りができてきた。漢字学習については支援者に筆運びの考えを伝えたので丁寧に書く人が増えたこと、漢字を学習し始めた学習者が能力試験を受けてみようという意欲が増したことなど成果が出ている。

(3) 今後の改善点について

アンケートによるとプログラムに関してあまり満足していない人もいる。ターゲットが入門～初中級のレベルなので、中上級レベルの学習を望んでいる人には応えられていない。学習者のレベルチェックを語学の観点からと生活上の課題達成の点からと複合的に見えるようにならないといけない。支援者に対しても、「生活日本語」クラスの取り組みが何を目標にしているのかを理解してもらい、尚且つ3ヶ月程度の学習の達成目標も共有していく必要がある。学習方法のアドバイスと学習支援は分けて考えてどちらもできるようにしていきたい。予算の関係上、これ以上講師枠やボランティア支援者を増やすことができないが、日本語学習支援をやりながら、外国人住民にも日本人住民にも住みやすい、多文化が街の活性化につながるような仕組みも考えていきたい。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:日本語学習支援者研修】										
目的・目標	日本語学習支援者の確保と支援者の多文化共生社会への理解促進と日本語指導の能力の向上									
対象	地域の日本人住民、日本語ボランティア									
取組の内容	ボランティアの確保と能力向上のために、①外国人事情(2H)、②必要な日本語能力とは(2H)、③学習支援をするための知識 教え方 注意点(18H)、④言語習得の方法(2H)、⑤自律学習につなげる学習支援(2H)、⑥文字学習をサポートする(10H)、⑦学習者の出身国の文化を知ろう(4H)というテーマで研修を行う。									
実施期間	平成29年6月25日～平成30年2月17日					曜日・時間帯	①日本語ボランティアのための基礎講座 (10/8～12/24 毎週日曜日13:30～16:30) ②研修会 6/25(13:30～15:30)、7/5(12:30～14:30)、9/6(1:30～15:00)1/27(13:30～16:30)、2/17(13:00～16:30)			
開催回数	全 32時間 (1回3時間×10回、1回1.5時間×1回、1回2時間×2回、1回3.5時間×1回)					開催場所	新長田勤労市民センター会議室、KFC教室スペース、神戸国際協力交流センター会議室			
参加者	総数 55人 (日本語学習者_0人、指導者・支援者_55人など)						使用した教材・リソース	「筆運びで学ぶ楽しい漢字帳」 「生活日本語できる?できた!」 「みんなの日本語」		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
	日本(53人)									
カリキュラム案活用	当センターで実際にどのような目的でどのような内容の日本語教室を開催しているか、そのためにどのような養成講座が必要か、また支援者のどのような能力向上が必要かを企画するときに①～⑤を参考にしている。									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名	
1	平成29年6月25日(日) 13:30～15:30	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	11	漢字学習支援の基礎	非漢字圏の人の漢字学習の課題とその解決に向けた支援方法の提案		岡本道代		
2	平成29年7月5日(水) 12:30～14:30	2	神戸定住外国人支援センター教室スペース	7	日本語教室のコーディネーターの役割	新コーディネーターと活動を共にするボランティア支援者とで、どのような教室を作っていきたいか、コーディネーターに求めるものは何かなどを意見交換		遠藤 知佐		
3	平成29年9月6日(水) 13:30～15:00	1.5	神戸定住外国人支援センター教室スペース	7	学習記録簿の有効活用について	学習記録簿の成果と課題、もっと有効に活用するための意見交換		奥 優伽子		
4	平成29年10月8日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労市民センター会議室	9	神戸市の外国人の歴史と現在の状況／KFCの活動紹介	アイスブレイク、在日外国人の状況、神戸市の外国人の歴史的な経緯、KFCの活動紹介と地域での役割		金 宣吉		
5	平成29年10月15日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労市民センター会議室	12	ボランティアとは?外国人に必要な日本語能力とは?／ボランティアからの活動紹介	日本語ボランティアの役割と生活者の外国人に必要な日本語はどのような日本語か／私の日本語ボランティア活動		中井 好男 石川 明子		
6	平成29年10月29(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労市民センター会議室	10	文型を使っていきいきとおしゃべりしよう!／神戸中国帰国者日本語教育ボランティア協会とボランティアからの活動紹介	ボランティアの日本語教室で、どのように「みんなの日本語」のテキストを使って学習支援をしていくか／私の日本語ボランティア活動		根津 京子 長 陽子 作野 好秋 首藤 真知子		
7	平成29年11月5日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労市民センター講習室	9	漢字学習支援、筆運びで学ぶ楽しい漢字帳を使って	ボランティアの日本語教室で、どのように漢字の学習を支援していくか。KFCの2016年度に作成した漢字帳を使って／神戸学生青年センター、日本語サロンの紹介		伊川 輝義 都築 和可子		
8	平成29年11月12日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労市民センター会議室	7	言語習得の方法、自律学習につなげる学習支援	自律的学習につなげる学習支援:「教える」のをやめる		青木 直子		
9	平成29年11月19日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労市民センター会議室	7	言語習得の方法、自律学習につなげる学習支援	自律的学習につなげる学習支援:実践活動の共有と支援者としての学び／東灘日本語教室の紹介		青木 直子 長尾 正康		

10	平成29年11月26日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労 市民セン ター会議室	8	文型を使っていき いきとおしゃべりし よう！／神戸中国 帰国者日本語教 育ボランティア協 会とボランティアか らの活動紹介	ボランティアの日本語教室で、ど のように「みんなの日本語」のテキ ストを使って学習支援をしていくか ／私の日本語ボランティア活動	根津 京子 長 陽子 作野 好秋 下橋 美知子	
11	平成29年12月3日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労 市民セン ター会議室	9	生活日本語、でき る？できた！くらし の日本語を使って ／兵庫県の日本 語教室の状況	生活日本語テキスト「できる？でき た」の趣旨と使い方。兵庫県の日 本語教室の状況	村上 由記	
12	平成29年12月24日(日) 13:30～16:30	3	新長田勤労 市民セン ター会議室	7	コミュニケーション をとるための日本 語、やさしい日本 語／神戸国際協 力交流センターの 活動紹介	日本人のツールとしての「やさしい 日本語」の考え方と実習／神戸国 際協力交流センターの活動紹介	斎藤 明子 小林 真由美	
13	平成30年1月27日(土) 13:30～16:30	3	神戸定住外 国人支援セ ンター教室 スペース	11	生活に必要な日本 語とその支援方法	文法文型学習ではなく、行動がで きるということが大切なので、その 観点からどう学習活動をすすめて いけばいいかの講義とグループ ワークを行う	板持 佳代子	
14	平成30年2月17日(土) 13:00～16:30	3.5	神戸国際協 力交流セン ター会議室	26	成人の外国人の 学習の場について 考える	第一部:「成人基礎教育の視点から 日本語学習支援を考える」という テーマで野元弘幸先生より基調講 演。 第二部: パネルディスカッション コーディネーターを青木直子先生 にパネリストとして、神戸市教育委 員会生涯学習課主事の田中洋平 氏、神戸国際協力交流センター運 営課長の小林真由美氏、NPO法 人トッカビ代表の朴洋幸氏を迎え、 それぞれの活動、理念や課題の 報告、会場からの質問に答える形 で進めた。第三部: 交流会 自由 交流会とし、第一部、第二部で講 師などに聞きそびれたことや他団 体との情報交換を自由に行った。	野元 弘幸 青木 直子 田中 洋平 小林 真由美 朴 洋幸	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第13回2018年1月27日】

1月27日、兵庫県国際交流協会日本語講師・板持佳代子氏を講師に迎え「生活に必要な日本語とその支援方法を考える」というテーマで学習支援者向け研修を開催した。学習者に何から教えるべきかは、支援者にとって悩みのひとつ。講師は、学習者の視点にたち、必要としている表現から教えることが重要だと話された。来日した事情は様々だが、学習者にとって日々の生活は分からないことだらけで、買い物、電車の乗り方、ゴミの出し方など、使用頻度が高く生活場面で適切に対応するために必要な表現を優先的に理解させることが、環境の変化に伴う学習者の不安の解消と自信・安心につながることも仰った。

続いて、3グループに分かれ、いくつかのシーンにおいて知っておくべき日本語表現は何か討論を行った。例えば電車で目的地まで行くために必要な表現として、自動券売機の使い方、自動改札の通り方など日本の鉄道に特有な点を挙げる意見が多かったが、「最低限、『～はどこですか？』『きっぷはどうやって買うのですか？』と、駅のスタッフに質問する表現を知っていれば、目的地まで行くことはできる」とコメントがあり、困ったときに対応するための表現を知っておくことの重要性を全員で共有した。



○取組事例②

【第14回2018年2月17日】

研修セミナー『成人の外国人の学習の場について考える』を2月17日に神戸国際協力交流センター会議室で開催した。

【第一部】基調講演「成人の外国人の学習の場について」—成人基礎教育の視点から日本語学習支援を考える—野元弘幸(首都東京大学教授)

野元先生は、マイノリティや被差別者、社会的不利益層の人間的な開放を目指す教育実践で世界規模で影響を与えたブラジルの教育者パウロ・フレイレに師事し、帰国後、日系ブラジル人・ペルー人の集住地域の豊田市保見団地での種々の支援やブラジル人学校などの設立・支援や社会教育における防災教育に携わっている。

多文化・多民族共生が叫ばれているが、現実にはなかなか進んでいない状況がある。外国人への差別・人権侵害は減っておらず、日本語教育法制化や日本語学習への公的な支援は依然遅れている。文化審議会国語分科会日本語教育小委員会の「日本語教育人材の養成・研修の在り方」に対して、日本語教員として、教育学に関する専門的知識を持つ人材、英語に限らずいずれかの言語で母国語者と一定のコミュニケーションがとれる程度の言語能力を持つ人材、外国人差別やヘイトクライム等について学び公平で寛容な社会の実現に取り組む“態度”を持つ人材を育てる必要があること、日本語教員養成・研修や配置に関する規定を教育法体系に位置づけるべきなどと提案している。

外国人住民及びその子供達の教育の課題としては、日本で働き、健康で文化的な生活を送るための日本語運用能力習得のための“日本語教育”、日本で働き、生活する上で必要不可欠な基礎的な知識や情報を得る場としての“市民教育”、母語の使用や母文化に関わる文化活動を通じて、自らの精神的・心理的拠り所を失わずに保持するための“文化的アイデンティティ”、母国における自らの職業能力や経験を日本においても発揮し、さらに日本での労働の経験を母国での労働に活かせるようにする“職業・技術教育”等が挙げられる。

日本においても、公立夜間中学の先生の尽力で、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が制定され、その基本指針の中に、夜間中学校において、本国において義務教育を終了していない外国籍の者、不登校など様々な事情から実質的に十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により卒業した者で、中学校等で学び直す事を希望する者を受け入れるという多様な教育機会の提供が可能となっている。

年齢・国籍にかかわらず夜間中学等で受け入れることが可能となり、教育活動を充実されると共に、受け入れる生徒の拡大が図られている。

【第二部】パネルディスカッション「各団体の活動の成果と課題」

コーディネーター：青木直子(大阪大学大学院教授)

パネリスト：田中洋平(神戸市教育委員会生涯学習課指導主事)

小林真由美(神戸国際協力交流センター運営課課長)

朴洋幸(大阪府八尾市トッカビ代表)

各団体から、学習の場の紹介・成果と課題についての説明があり、それに関する質問・回答がありました。単に日本語を教えるというのではなく、当事者が自立できるような支援、イニシアティブが取れるような支援が必要であること、また、学びの場を社会教育の一部としていかに提供するかが重要であるとの説明があった。

【第三部】全体交流会 参加者全員で自由に交流した。



(2) 目標の達成状況・成果

アンケートからは、日本語教育について理解が深まった人が回答者の大半を占め、全員が活動に携わってみたいと回答している。日本語学習支援者の確保の観点からは講座を実施した成果が出ている。「まずは何かを始めよう。学習者の自立を阻まない支援をしたい」「多くの事例があったが学習者本位を大切に学習を進めることの必要性を強く感じた」「日本語・識字教育の必要性をますます感じた」などの意見が出た。日本語指導の能力の向上は、漢字学習の支援、その他文型の考え方や生活日本語の考え方、学習者の視点に立つことを講座で取り上げた。「テキストから一步広がった内容を展開できることを知った」「日常生活の見直し、外国人の立場で考えることが必要だ」「生活者の視点で日常をみるのが活動の参考になると改めて感じた」「時々こうした講座を受けることは刺激になる」などの意見が出た。支援者への研修を定期的に行うことがいい活動に結びつき成果があがっていく。

(3) 今後の改善点について

講座や研修を行ったが、当センター外の参加者からは当センターへのボランティア登録がなかった。「ボランティア養成講座」は他機関でやっているのだから当センターではやめたらどうかという意見が運営委員会から出た。日本語ボランティアが外国人住民の生活がうまくいくようにサポートしているような活動の紹介や対話型学習の講座はどうか。会話コミュニケーションのパートナーとして会話がうまくいくための注意点やノウハウの講座や研修を取り上げる。また研修会をユニットのようにテーマ別に連続して2回行い、実際に自分でやってみて最後1回振り返りとして集まるような講座の形式はどうか。日本語学習だけではなく、成人教育についてどんなトピックが必要か、誰が何を必要としているか、どのような講座を提供すればいいか、内容は何にしたらいいかニーズをどうやって知るかをまず考えないといけない。日本語だけでなく知識を知ってもらうためにどうするか。クラスの現場での課題を研修会で取り上げ、またクラスで学習者に返せるように仕組みを考えたい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：文字、漢字を読む・中上級に結びつく書き方の学習帳】			
目的・目標	日本語の文字の読み書きを基礎から順序立てて学ぶ学習帳の作成。その学習帳を指導するための知識部分もつける。		
対象	入門・初級・中級レベルの日本語学習者		
教材の内容	①生活の漢字(1 数・お金、2 カレンダー・時間、3 住所、4 お手洗い、5 知っておこう、6 買物、7 家電・リモコン、8 交通、9 病院、10 銀行・郵便局) ②楽しい漢字練習帳(2017年度作成「筆運びで学ぶ楽しい漢字帳148」の漢字を書く練習帳として)(内容:漢字、N5・N4レベルの読み方、書き順、クイズ)		
実施期間	平成29年5月15日～平成30年3月20日	成果物のリンク先	
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	①生活の漢字 授業時間 30時間 (学習として1回2時間×10回 復習時間1回1時間×10回) ②楽しい漢字練習帳 授業時間 17時間 (学習として1回1時間×17回)	教材の頁数	①42ページ ②64ページ
カリキュラム案活用			
教材の活用方法	2017年度に基礎漢字148コの学習帳を作成した。しかし何回か書く練習、漢字学習の初期に筆順の考え方を入れることが必要だ考え、今年度にその練習帳ができたので、合わせて学習教材として使用した。 漢字は生活場面で認識が出来なければ不自由なことが多い。「生活の漢字」の考え方で身近で毎日目にする漢字を単語として覚えていくことも学習で取り入れた。		
今後の活用の予定	地域日本語教室での漢字学習の取組について道筋が見えてきたので、学習希望者に合わせて無理なく楽しく漢字学習に取り組んでいく。生活の中でわかると楽しいと感じてもらおう、生活日本語のクラス内でも学習教材としてとりあげていく。		



4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

生活している外国人は当地域でも増加傾向である。日常会話ができるようになると漢字を含めた読み書きやビジネス社会で通用する力をつけたいという希望になる。これまで6年間、講師とボランティアとが協力して「生活日本語」クラスを行ってきて、学習者の日本人との関係作りの中で日本語能力と多文化相互理解をすすめることができています。そこで培った学習形式や内容を養成講座で取り上げ、より多くの支援者養成を行う。さらに支援者が力をつけると即学習者に還元されるので、研修会を支援者のレベルアップを目的に行う。さらに中上級レベルに引き上げていくための読み書き、漢字の力、ビジネスに対応できる力をつけられるように、漢字語彙を習得するためのテキストを作成し、全般的な日本語能力の力を伸ばしていくようにする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

「生活日本語」クラスは継続して行っているため、支援者側に一定のノウハウ(初めて来た人への接し方、学習支援の方法、生活のサポート)が蓄積され、よりスムーズに教室活動が行なわれている。学習者数、支援者数の安定、教室外活動が活発になってきたことが、関係作りの目標の成果である。日本語を教えることだけを目的に参加を始めた人にも外国人住民の増加や置かれている状況をクラス活動を通じて感じてもらい、日本語学習支援以上の意味を理解してもらえた。運営委員会の昨年度の発言と比較しても、日本の生活や学習に関する話から教室と地域を結びつける話や成人教育の必要性の話が出てきた。また非漢字圏の人が困難を覚える漢字学習のテキストを作成することで、当センター全体が生活者にとって読み書きの学習も必要であるという考えを持つようになったことは成果である。しかし予定していた漢字テキストの一部は未完成で来年度に持ち越しとなった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・カリキュラム案に目を通し、他団体でどのような教材を作っているかを参考にし、前橋市の「かけはし」を今年度購入した。最近は海外での生活経験をもつ支援者も増えているので、どのような内容が生活する場合に必要であるかを話し合っている。その話し合いでも参考資料としている。市販の日本語教材では生活者の視点に立った内容がでてこないことも多いので忘れずに注意している。クラスごとに学習前の準備段階で適当だと思われるものを取り上げた。病院、防災、事故事件は組み込むようにした。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

「日本語ボランティアの基礎講座」の際に、県と市の国際交流協会の人に講師として来てもらい、外国人住民の生活サポート、日本語学習や通訳翻訳サービスについて説明してもらった。同時に近隣のボランティアの日本語教室からも講師として招き、教室の案内や日本語ボランティアとしての経験談を聞く機会を設けた。他には、日本語学習支援に関して学習者が重なる夜間中学校と情報交換を行った。研修会への中学校の先生の参加や当センター支援者から指導方法の相談など相互に協力している。また保育所に勤務しているベトナム語話者が当センターにも来ており、その人を通じて保護者の日本語学習支援の道筋をつけた。小中学校の外国人児童の日本語教育を考える会では、教職員で補いきれない部分をどうサポートするかやりながら考えており、教育委員会とのつながりで地域の多文化共生の一役を担うことができています。

(5) 事業実施に当たったの周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

支援者向けの講座や研修会は、今年度は事業周知と広報はうまくいかなかった。例年通りでは受講生が集まらなかったため、募集地域を広げ、国際交流協会などへチラシを送付した。複数のメーリングリストや個人的なつながりを駆使して広報を手伝ってもらった。今後SNSの利用、申込方法の利便性など考えていかないとけない。翻って学習者向けの講座は広報なく参加者が集まり、夏と秋の時期は断らなければならなかった。学習者のニーズとそれに応えられる支援者や団体の力とがアンバランスであった。事業成果の発信は、当センターのHP、定期発行物では行っているが関係者以外の目に触れにくいので、つながりの薄い分野への発信も考えて行かなければならない。さらに次の課題への解決の道筋になるような発信力が必要であるが、できていることとできていないことを捉えて発信していかなければならない。

(6) 改善点、今後の課題について

・日本語学習だけではなく、成人教育について考える時期に来ている。来年度に免許取得のための教室や保育所での保護者に対する日本語教室を考えている。パソコン教室や仕事に結びつく日本語学習なども取り組んでいく。
・以前はベトナム難民の家族など定住外国人が多かったが、ここ1年ほど転勤族の配偶者等が目立つようになった。経済的な支弁が可能な層がクラスの主流になると、当地域の経済的困難者は来にくい場所になる。どちらも両立させられるクラスを考えて行かなければならない。日本語ボランティアの役割も会話パートナー、教える人、生活サポーターと区分して考えた方がいいかもしれない。

・教室と地域を結びつけるために
日本語教室へ来ない人、社会とつながりがない人へのアウトリーチを考えるべき。
マイノリティのコミュニティの核の人とのつながりが成功の元。
一般の人が来ってもらうために日本語以外のものが必要。
売れるものが必要(子育て情報、手続きのプロ)
保育所、幼稚園、病院などの日本人のみの社会に入る、地域にとけこむためには、外国人との橋渡しになる人が必要。
橋渡しのような、生活サポーターのようなボランティアを募集するために、
あなたの人生経験を活かす、語学を活かす、やさしい日本語で話す、
日本語以外での居場所作りをHIAで力を入れている。夏の日本語講習会では日本語講師以外の人、外部の人との自己紹介の仕合いや話を聞くなどの活動をした。
日本語ボランティアじゃない人を教室に呼んでくるのはどうか。より地域に外国人が入り込めるように。日本語教室と他とのつながり、例えば長田区役所、地域ふたばなどと一緒には何かできないか。
既存の日本人の集まりに外国人を連れて行っていいかリストを作ってみてはどうか。外国人参加OKのグループリスト、公民館の外国人参加OKのグループリストなどの作成。

(7) その他参考資料

